



日本

# ハンザキ研究所ニュース 2011(9) : 通巻 No. 69

発行 2011年9月30日

〒679-3341 兵庫県朝来市生野町黒川292

Tel/Fax: 079-679-2939

E-mail: info@hanzaki.net

URL: http://www.hanzaki.net

NPO 法人 日本ハンザキ研究所 栃本 武良

## 円山川水系の建屋川（養父市）と出石川（豊岡市）その後

9月23日、遠路三重県からやって来た清水善吉夫妻と一日、二つの工事河川を見て回った。平成2年の台風と秋雨前線による災害で平成7年に掛けて大規模な工事が実施された建屋川の15年後の姿を見た。当時は多自然型河川工事の通達が出たばかりで、画期的な自然配慮型工事として喧伝された。私が水族館の飼育係の身で河川工事に頭を突っ込むことになった川でもある。各所に大水の爪あとを残しており、竣工時の姿とはあまりにもかけ離れた惨状であった。平成16年災害の出石川も同様であり、これが自然の猛威のなせることなのだ実感させられた。詳細は後日に昔日の写真などと比較しながら報告したいと思う。しかし、これも過渡期の河川工事の例として次の工事への教訓とすべく、検証しておく必要があると思う。手を入れることができるところには是非補修・改善を願いたい。



清水 千佳子 画

左のイラストは、一日同行された千佳子夫人のプレゼントである。どうもすっかり飲兵衛の噂が広まっているようだが、ハンザキと共に二人三脚で後一踏張りしたいものだ。気に入ったので表紙に使わせていただいた。

私の身長は172㎝ということなので、お隣のハンザキ君は2倍超という大物になる。中国ハンザキは2倍以上になると書かれているということなので、ぜひとも日本のハンザキたちにも頑張ってもらいたい。今年生まれの幼生が200年後にその雄姿を見せてくれることを願っている。夢！夢！夢！



写真1 カモガワ・ハンザキの排出卵



写真2 史跡名勝天然記念物候補の朝来市和田山町護念寺枯山水庭園



写真3 怖えーなー (写真3・4共に銀谷祭りにて)



写真4 僕より大きいカモガワ・ハンザキを見つめる



写真5 ハンザキ観察会 (三重の清水善吉講師)



写真6 サンド・ポンプによる排砂テスト



写真7 完工1年後の建屋川野谷



写真8 完工15年後の建屋川野谷



写真9 完工16年目(今年)の建屋川野谷



写真10 多段式全面魚道の倒れた隔壁(建屋川)



写真11 10月2日の現場(写真 加賀見)



写真12 10月4日の現場(写真 加賀見)

## 円山川水系におけるオオサンショウウオ事情⑤

但馬国府・国分寺館長 加賀見 省一

9月27日、朝8時に職場の電話がなりました。職場の電話番号と市内の公立の2病院の番号がよく似ているため、朝早くの電話の半数は間違い電話です。「病院ではありません」と言っても「なぜ!?!・・・病院の番号は?」と逆に聞かれることもあります。このときもてっきり間違い電話だと思いつつ受話器をとると聞き覚えのある声で「昨日、今年初めてカニカゴを漬けたら、サンショウウオが入った」と言う、元教育長だったK先生からの電話でした。

早速、準備をして現場に直行、場所は豊岡市日高町久斗の稲葉川(いなんばがわ)、自宅近くでもあり今までも数回オオサンショウウオが確認されているところです。K先生と現場で待ち合わせ、カニカゴを漬けてあるところへ案内していただきました。歩きながら「大きさはどうですか?」と聞くと「いやあー小さいなあ」と言う答えにひよっとしたら小型の個体かと期待したのですが全長73㎝、体重2.8㎏ありました。以前に入った個体が90㎝ほどあったとのことで、それに比較すると小さいと言うことでした。この場所は30㎝ほど上流に堰堤がありその下には深い淵があります。その淵から瀬に続く途中の少し深いところでした。マイクロチップは入っていませんでしたので挿入してその場に放流しました。チップ番号は00-06CC-7870です。

個人的には今年は円山川の遊漁券を買ったので、10月1日、数年振りにカニカゴを漬けに行きました。翌日に見に行くとオオサンショウウオが入っていたのです。場所は先日の個体が見つかった場所の上流にある淵の深場です。カニ籠に入ったオオサンショウウオの保護は今までも再々ありましたが、自分が仕掛けた籠に入ったのは初めての事でした。とりあえず籠に入れたまま浅瀬に確保して置き、職場に道具を取りに戻りました。全長89.5㎝、体重4.35㎏で、マイクロチップが入っていませんでしたので挿入して放流しました。番号は00-06CC-7A00です。

2度ある事は3度あるのとえどおり10月4日に、カニカゴにオオサンショウウオが入っているという電話が入りました。この方は昨年9月にも連絡をしてくれた人でした。(その個体は全長67.5㎝、体重2.37㎏、チップ番号00-06CC-6B65でした)。職場に公用車が無かったので本庁に応援を頼み指定された場所に出向きました。全長75㎝、体重2.66㎏で、これもまたマイクロチップを挿入しました。番号は00-06CC-67A3です。場所は同じく稲葉川で9月27日の個体の250㎝ほど下流になります。この8日間で300㎝ほどの区間で3個体のオオサンショウウオが発見されたことになり、全て未登録個体だったと言うことになります。稲葉川の流域は、神鍋山の下流から東構の周辺にかけて、噴火により流れ出た溶岩流で河床や河岸が形成されている所が多くあります。今回の発見場所も溶岩によって瀬や淵など複雑な地形を作っています。こうした地形がオオサンショウウオの棲み処に適しているのかもしれませんが。

## ハンザキの夜間観察会

夏休みの2回の観察会に続いて、9月24日というこの時期に実施するのは繁殖期になるからです。昨年はいまい具合に人工巣穴に卵を守るオス親を見ていただきました。蓋を開けると真珠の山盛りのような卵塊を見ると毎度の事ながら感激します。それを見ていただきたく計画するのですがそうは問屋がおろしません。これが野生の動物との付き合い方なのですが、今年は残念ながらお見せできませんでした。最後の望みを掛けて午前中に巣穴をチェックしたのですが、クロアカ（総排出腔）の周囲が十分に隆起した良い状態のオスがいたのですが卵はありませんでした。

夜間観察会は、市川の最上流部になる黒川自然公園センター近くで実施しました。偵察隊が先行し出現しているハンザキの位置を確認して皆さんを案内しました。自然の河川で自然な姿を見せるハンザキに参加者は皆感激していたようです。発見した数は多かったのですが、皆さんに見ていただくためにそっとしておいたことからにげられてしまい、捕獲は3個体でした。しかし、その内の2個体は明らかに腹部が大きく、卵を持っているメスと見えました。

良い状態のオスとメスが見つかったということなのですが、ざんねんながら4<sup>キ</sup>も離れた位置です。運んでやって人工巣穴のオスのところへ入れてやったら産卵受精が行われたのかなとも思いますが、あまり野生に人の手を加えることは控えるべきかと断念しました。

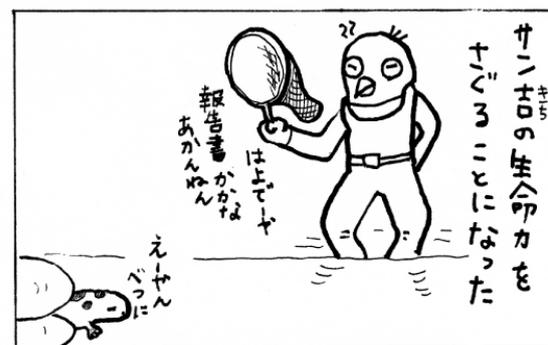
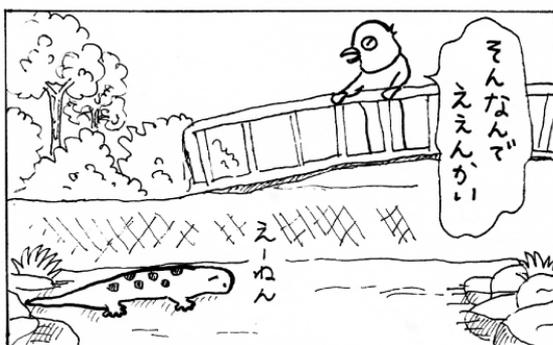
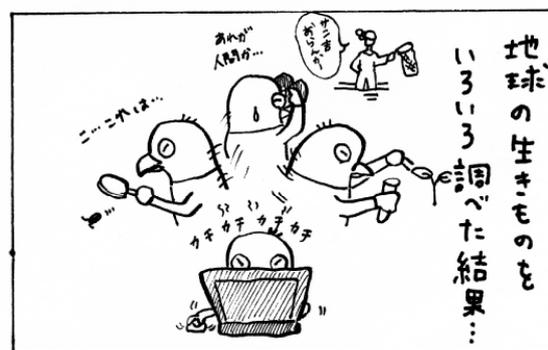
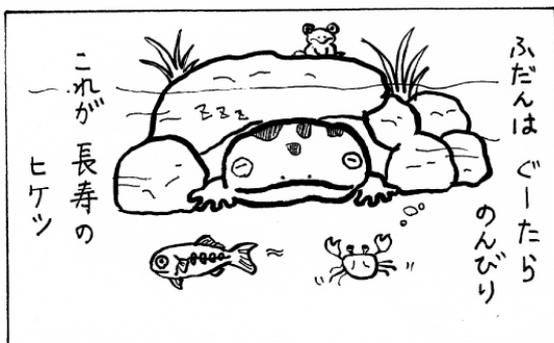
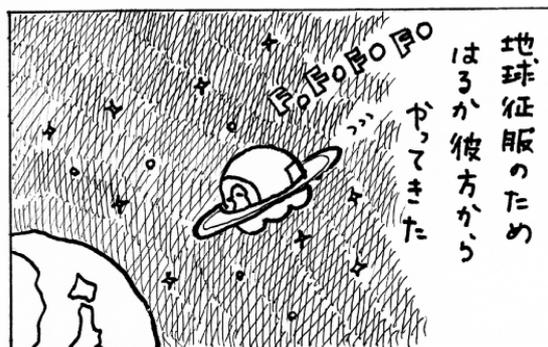
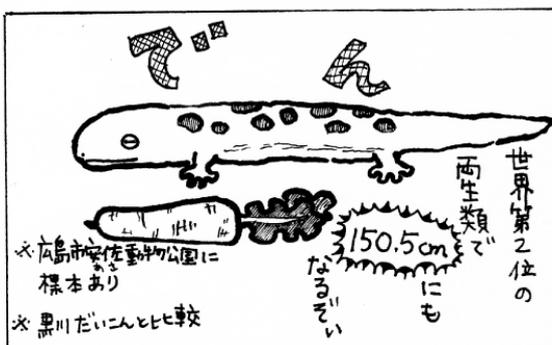
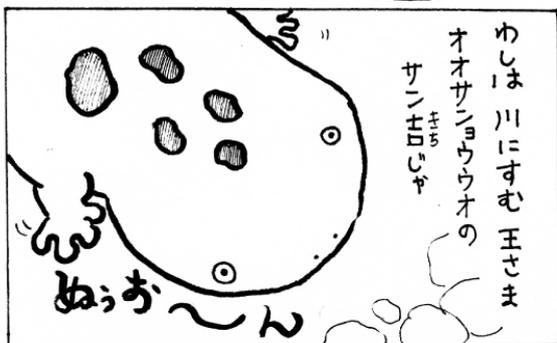
.....

## 史跡名勝天然記念物・・・朝来市和田山町の護念寺の枯山水庭園

私は平成8年から、兵庫県の文化財保護審議会委員を受けています。水族館の飼育係が何で絵画や仏像・寺院などの文化財を審議できるのかとお考えの方は多いようです。しかし、ハンザキも天然記念物として国の文化財に指定されているのです。兵庫県には数多くの天然記念物が指定され保護されていますが、残念なことには動物はウツギノヒメハナバチ（朝来市）とウミウ（南淡路市）の2件しかありません。これは大変に残念なことであり、何とか動物の指定数を増やしたいと思っています。

今回も、当ニュース47号で紹介しました南淡路市沼島の神宮寺庭園に続いてのお寺の庭の調査になりました。庭の良し悪しは見ただけで感ずる所もあるでしょうが、本当の所は史跡としての価値があるのかどうか分からないのが本音です。作庭の根本はそこに来た人々の五感になにかを訴える所があればいいのだろうと思います。

護念寺は雲の上の山城として有名になった竹田城に相對する位置にあって、出城の要塞としての存在が伺われます。昔は寺も戦の最前線にあって村を守る役目が有ったと言われています。山の中腹に建立された寺ですが、岩組みの趣のある枯山水の庭園は県の史跡としての価値が有ると思います。ただ、いくつか周辺環境を含めた修正が望まれるように思いましたので、素人ながらの提言をいたしました。決定はいかがになりますか？



## ポンプ止まる！！

なんということでしょうか！ 今年は何回もの大水が台風や豪雨によって濁流となり市川の環境を大変化させてしまいました。ハンザキ研としては5・6月に2回のポンプ・ピット浚渫が業者によって行われました。更に、9月の台風12号では大量の土砂がピット内に流れ込んで揚水量を激減させてしまいました。さらに台風15号の影響でついにポンプがストップしてしまったのです。水中生物の飼育施設では水の循環が止まるということは空気がなくなるのと同じことです。幸いなことに、気温・水温共に低下するシーズンであり水中ポンプによる攪拌だけで3日間を凌ぎました。高さ50センチの水中ポンプは見えなくなるまで砂に埋もれても水を吸い上げてくれますが、その上に1センチもの土砂の堆積があつてはさすがにストップしてしまいました。

各地での災害復旧工事で建設会社のほうもいつになるのかあてになりません。やむなく人力で砂の掻き出しを試みました。7・12・13・14・15・16日と午前午後各1時間ほどの砂出しを試みました。17日には大雨で再び土砂が大量に入つてついに2台目のポンプもストップしてしまいました。18日も作業しましたが、止水状態で2日目となり、これでは駄目だと19日には事務局長と副事務局長に応援してもらい砂出しをした結果、1台のポンプが動き始めたのです。ほぼ3日間、水中ポンプで攪拌するのみで過ごしてきたので、ほっとしました。水源も予備が必要であることを痛感させられました。

.....

## ハンザキ所長のツブヤ記録

9月もあつという間に過ぎ去った。当ニュースやNPO会報のあんこうの原稿、そして県養父土木事務所からの受託事業（一時飼育管理）終了に伴う報告書作成などとデスク・ワークに追われる中で、連日の水中土木作業には閉口した。1時間ほどの排砂作業でダウンしてしまう。生き物は待たなしの状況だからやらねばならない。

建屋川や出石川の環境に配慮した河川工事のあとを一日がかりで見て回ったが、これもまた自然の脅威にさらされた無残な姿を目にしてきた。これらの結果は次への工事に活かされることが重要なのだ。過渡期のつらい所だが、何もしなかった場合よりは数段もの成果を残せた物と考えている。

秋になると、川蟹漁が行われる。ハサミにタツプリの毛を生やしているので“モクズガニ”と呼ばれるカニである。上海ガニとも呼ばれて美味な秋の味覚の一つでもある。カニ籠という簡単なトラップで中に魚のアラなどを入れておくとカニだけでなくイシガメやイモリ、そしてハンザキも入っていることになる。豊岡市の加賀見さんは自分で仕掛けた籠にハンザキが入っていたという話を書いてくださった。各地で多くの方がハンザキに注目してその情報をもたらしてくれることは、本種の保全にとって頼もしい限りだ。国の宝である文化財としてのハンザキの存在は、その河川環境の健全なことを教えてくれるのだ。

ハンザキ研日誌

2011年9月

- 1日 円山川水系自然再生推進委員会技術部会開催、豊岡市にて
- 3日 台風12号、岡山県倉敷市通過
- 4日 ・兵庫県中播磨夢ビジョナー一行11名視察に来所  
・1号ポンプストップ、2号ポンプはチョロ水となる
- 5日 京大・松井研の服部4年生、卒論の下見に来所
- 8日 ・ナショナル・ジオグラフィック社、川端浩人氏他取材に  
・簾野地区の人工巣穴の主が不在となる  
・カモガワ・ハンザキ6個体搬入（総計153匹）  
・流出卵75收容（産卵直後で29日までに全て腐る）
- 10日 事務局会議、8名出席、夕食はバーベキューの集いで10名参加
- 14日 ・関電・奥多々良木発電所より、黒川ダム湖のハンザキ救出作戦開始決定と連絡  
・市川水系竹原野地区追跡調査～17日、5個体確認
- 15日 カモガワ・ハンザキ12個体搬入、内1匹排卵中（総計165匹）
- 16日 昨日搬入のカモガワ・ハンザキ♂1個体咬み殺される
- 17日 大雨で濁流、ポンプ揚水せず
- 18日 作業ボランティア応募なし・参加1名、ポンプ・ピットの浚渫作業
- 19日 奥藤事務局長、竹村副事務局長と3人でポンプ・ピットの浚渫、1号ポンプ動く
- 21日 ・台風15号、静岡県浜松上陸、再び濁流がポンプ・ピットへ  
・TBS一行5人ハイブリッド取材  
・助広山の受水槽掃除
- 22日 兵庫県文化財保護審議会・現地調査（朝来市和田山町の護念寺の枯山水庭園）
- 23日 三重自然誌の会の清水善吉夫妻と建屋川と出石川視察
- 24日 ・10月分（10月は日程調整できず）の事務局会議6名参加  
・ハンザキ夜間観察会、清水善吉講師、46名参加、3個体測定、黒川にて
- 25日 生野・銀谷祭りに出展、6名で
- 27日 サンド・ポンプのテスト、上々であり、話を進めることとする
- 28日 ・簾野の人工巣穴チェック、ヌシ不在  
・カモガワ・ハンザキ12匹收容（総計177個体内15匹死亡）  
・ソフトバンクのケータイのアンテナ工事完了、半年もかかった  
・24時間観察カメラと照明の移設
- 29日 日本オオサンショウウオの会真庭大会の報告書完成（ディスクとプリントで）
- 30日 7月29日以来の下山  
: 今月の調査測定個体は23匹（内4個体神姫登録）  
: 今月のカモガワ・ハンザキ收容数30個体（総計177匹、内15匹死亡）